

北 河 内 会 報 自 然 愛 好 会

2020年9月7日№.109

北河内自然愛好会発行

事務局：大東市野崎 3-7-7

西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

第 416 回例会「神峯山の植物」高槻市 2020年6月20日(土)

栗田泰子

天気、晴れ風あり。前日までのぐずついた空模様も嘘のように爽やかな例会日和になり JR 高槻駅に 12 名が集合しました。コロナ騒動で 3 月以来例会の中止を余儀なくされ、久しぶりにお会いする皆さん大変お元気そうでお喋りに花が咲きます。9時54分のバスはハイカーでほぼ満員、上の口で半数が下車し嘘のように空いたバスを最寄りのバス停の原立石で下車し、新入会の 2 名の紹介と会長の簡単な挨拶の後、10時25分にせせらぎ沿いを神峯山寺に向かいました。

花といえばネズミモチやメキシコマンネングサ、ヒメジョオン、植栽のスイセンノウ、ネムノキくらいですが、木々やツル植物を一つ一つ熱心に眺めるのでなかなか行程が捗りません。牛地蔵まで半時間近くかかりました。ここから軽い登りが駐車場まで続きます。アリドオシやミズスギの生える暗い道をシダを見ながら上がり広い駐車場に到着。新名神工事で伐採され殺伐とした荒地地に生えるのはタケニグサ、ナルトサワギク、ヨウシュヤマゴボウ、ノゲシ。土嚢に植え込まれた木々は乾燥のせいかわばら立ち枯れていました。

駐車場で小休憩を取り東海自然歩道に入りますが、新名神工事で荒地地となった場所を過ぎ、橋を渡ると本来の緑豊かな別世界に入ります。ホソバタブ、ツブラジイ、イヌガヤ、サカキ、カナメモチ、オオバノイノモトソウ、オオカナワラビやヒメカナワラビ、ハカタシダなどのカナワラビ系のシダ、クマワラビ、ヒメワラビ、ミドリヒメワラビ、イワヒメワラビ、ヒロハイヌワラビ、ホソバイヌワラビ、コバノイシカグマ、ウチワゴケ、ノキシノブ、マメツタなどのシダ植物、オオルリソウ、不明のマムシグサの仲間などが沢山生えています。頭上ではオオルリの爽やかな囀り、眼下には音高く流れる沢、短いながら駐車場から神峯山寺まで至福の時間を楽しみました。

東海自然歩道から車道に出てトイレ休憩後、路傍の神峯山いこいの広場に向かい、12時20分～12時45分までのんびりお昼。途中で不明のマムシグサを田中さんが採集し、調べてくださることになりました。

マムシグサの仲間は、葉が展開する前と花の時期に見ないと同定が困難な厄介な植物だそうです(葉が展開する前に花が咲くものや葉が展開してから花が咲くもの、葉より花が上に出るものや下に出るものなど)。

昼食後、神峯山の森自然園を見学。山野草のほとんどが人工的に植えられたものとはいえ、植栽後年月が経ち神峯山の自然に馴染んできているように思えました。

◎見られた主なものを列記すると：ウツボグサ(花)、チョウジソウ、ウバユリ(蕾)、ガクアジサイの仲間やアジサイの仲間多種類、コアジサイ、ヤブレガサ(花)、ホトトギスの仲間、ホタルブクロ(花)、ヤマホタルブクロ(花)、ギボウシの仲間(花)、ヨコグラノキ、イカリソウ、オカトラノオ(花)、ツルリンドウ、オカタツナミソウ、斑入りのタツナミソウ、タツナミソウ、サジガンクビソウ(蕾)、チゴユリ、ノギラン(蕾)、ササユリ(花)、アサマリンドウ、アクシバ(蕾)、ルイヨウボタン、ウワミズザクラ、キチジョウソウ、イチヤクソウ(花と実)、フッキソウ、エビネ(実)、ミヤマカタバミ、バйкаオウレン、ユウスゲの仲間、ドイツスズラン、カンアオイの仲間、移入のツクシスミレ、ムサシアブミ、ウラシマソウなど。アジサイ類は多種多様なものが随所随所に配され華やか。ササユリは花が小ぶりでピンクが濃く清楚な立ち姿を見せてくれました。

自然園を出てから神峰山口バス停までまっしぐら。14時46分のバスの人となり振り出しのJR高槻駅で解散の運びとなりました。稲原さまお世話様でした。田中さま、西畑さま、いつもながら博識で蘊蓄のある話で座を盛り上げ楽しませて頂き有り難うございました。

◎主に見たもの：せいたかのつぼのムラサキニガナ、シラスゲ、ヒメコウゾ、アオツツラフジ、(ノダ)フジ、オニドコロ、クマノミズキ、クサギ、アカメガシワ、エビヅル、アマヅル、ムラサキカタバミ、イタビカズラ、スギ、ヒノキ、ツタ、アメリカオニアザミ、サネカズラ、ウラジロノキ、ヤマウルシ、ヤマハゼ、ヤマコウバシ、ナナミノキ、アレチギシギシ、ヤブマオ類、ツユクサ、カスミザクラ、カキノキ、スイカズラ、ヒイラギ、キツネガヤ、(畑に)ポポー、テイカカズラ、タラノキ、ウド、マグワ、ノイバラ、コアカソ、カラムシ、タチツボスミレ、コスミレ、ウツギ、ツボクサ、カキドオシ、ノササゲ、ネジキ、アベマキ、ヤブツバキ、ナワシログミ、コバノミツバツツジ、モチツツジ、ガマズミ、コバノガマズミ、アラカシ、コナラ、ウシハコベ、ウスノキ、ナツハゼ、ジイソブ、シャガ、シャシャンボ、シキミ、ソヨゴ、コウヤボウキ、コナスビ、ユキノシタ、ナガバノタチツボスミレ、ドクダミ、カラスウリ、ヌカボシソウなど。

シダ類では、ホシダ、ベニシダ、オオイタチシダ、ミツデウラボシ、オオベニシダ、ホラシノブ、シシガシラ、コシダ、スギナ、コハシゴシダ、ハシゴシダ、フモトシダ、(ヒロハノ)トウゲシバ、コバノヒノキシダ、トラノオシダ、イワガネゼンマイ、イヌシダなど。

◎参加者：栗田泰子、稲原ヒサエ、榎本知恵子、影千恵子、川崎節子、妹尾雅弘、武田良子、田中光彦、中野潤子、中町荅子、西畑敬一、稲原良三。(以上12名)

第417回例会「キノコ観察会」枚方市 2020年7月9日(木)

西畑敬一

午前10時、集合場所の穂谷バス停には会員6名が参加、講師はお馴染みのスペシャリスト下野義人先生。いつものことながら、このキノコ観察会は参加者が少なく、先生には申し訳なく思っている。先生からは、少人数の方がより良い勉強ができるとおっしゃっていただき、毎回お言葉に甘えさせていただいている。当日は梅雨の真ただ中、雨が降ったりやんだりでした。

簡単な挨拶の後、観察へと向かう。早速田中さんが大物を発見。竹林に発生するアカダマキノガサタケをゲット。先生曰く、ちょっと待って、僕はマダケに発生するアカダマは見たことがない。なるほど、よく見るとマダケの林で見つかっている。これは大発見やと思いきや、その奥には孟宗竹の林があり、その根が伸びてきてそれに寄生したのだろうということで一件落着。写真撮影の後採集。キノガサタケのツボの赤いものをそう呼ぶそうである。特徴は、ツボが赤いのとレースのマントが通常のものより短いということだそうです。

歩を進めると、この時期ならではの色々なキノコが次々と見つかる。その都度先生に質問し、解説を聴きながら採集を続ける。約2時間程度採集を続け、最初のバス停の近くにある東屋で昼食を兼ねて、先生の指導のもと採集品の同定を行う。東屋のベンチに用意の新聞紙を敷き、各々採集したものを並べて先生の指導を仰ぐ。このキノコは傷をつけると色が変わる、このキノコはカレー臭がする、これはニンニクの臭いがあるものなど種を分類され、名前の分かったもの、そうでないものを含め、この場では59種が確認された。

一部はつきりしないものについては先生が持ち帰り、後日連絡をいただくことで本日の観察会は終了。参加者各自、欲しいものをゲットして他は近くの樹木のそばに返す。午後2時過ぎ集合場所のバス停で解散、帰路につく。参加者のみなさまお疲れ様でした。当日のキノコの種類については田中さんがまとめてくださったものです。

◎参加者：下野義人先生(講師)、栗田泰子、影千恵子、木村雅行、田中光彦、長島照文、西畑敬一(以上7名)

2020年7月9日 穂谷・きのこ観察会(作成：田中光彦)

1	ハラタケ目	ハラタケ科	カラカサタケ属
2	ハラタケ目	ハラタケ科	キツネノカラカサ近縁種
3	ハラタケ目	ハラタケ科	シロヒメカラカサタケ
4	ハラタケ目	ハラタケ科	ナカグロモリノカサ
5	ハラタケ目	テングタケ科	テングツルタケ

6	ハラタケ目	テングタケ科	ヒメコナカブリツルタケ
7	ハラタケ目	オキナタケ科	キゴガサタケ
8	ハラタケ目	ヒドナンギウム科	カレバキツネタケ
9	ハラタケ目	ヒドナンギウム科	キツネタケモドキ
10	ハラタケ目	ヌメリガサ科	アカヤマタケ
11	ハラタケ目	ヌメリガサ科	アカヤマタケ属
12	ハラタケ目	ヌメリガサ科	ヌメリガサ科
13	ハラタケ目	アセタケ科	キヌハダニセトマヤタケ
14	ハラタケ目	シメジ科	ハタケシメジ
15	ハラタケ目	ホウライタケ科	オオホウライタケ
16	ハラタケ目	ホウライタケ科	オリーブサカズキタケ
17	ハラタケ目	ホウライタケ科	スジオチバタケ
18	ハラタケ目	ホウライタケ科	ハナオチバタケ
19	ハラタケ目	クヌギタケ科	カヤバノクヌギタケ
20	ハラタケ目	ツキヨタケ科	アシグロホウライタケ ?
21	ハラタケ目	ツキヨタケ科	サカヅキホウライタケ近縁種
22	ハラタケ目	ツキヨタケ科	シロホウライタケ
23	ハラタケ目	ツキヨタケ科	ニオイカレバタケ
24	ハラタケ目	ツキヨタケ科	モリノカレバタケ
25	ハラタケ目	ナヨタケ科	イタチタケ
26	ハラタケ目	スエヒロタケ科	スエヒロタケ
27	ハラタケ目	キシメジ科	コザラミノシメジ
28	イグチ目	イグチ科	アワタケ
29	イグチ目	イグチ科	コウジタケ
30	イグチ目	イグチ科	イロガワリ
31	イグチ目	イグチ科	イロガワリキヒダタケ
32	イグチ目	イグチ科	キッコウアワタケ
33	イグチ目	イグチ科	コオニイグチ
34	イグチ目	イグチ科	ヌメリコウジタケ
35	イグチ目	ニセシヨウロ科	コニセシヨウロ
36	イグチ目	ニセシヨウロ科	ヒメカタシヨウロ
37	スッポンタケ目	アカカゴタケ科	サンコタケ
38	スッポンタケ目	スッポンタケ科	アカダマキノガサタケ
39	キクラゲ目	キクラゲ科	アラゲキクラゲ
40	キクラゲ目	キクラゲ科	キクラゲ
41	タマチヨレイタケ目	シワタケ科	ハナウロコタケ
42	タマチヨレイタケ目	タマチヨレイタケ科	アラゲカワラタケ
43	タマチヨレイタケ目	タマチヨレイタケ科	チリメンタケ
44	ベニタケ目	ベニタケ科	アカカバイロタケ
45	ベニタケ目	ベニタケ科	アシボソチチタケ近縁種
46	ベニタケ目	ベニタケ科	キチャハツ
47	ベニタケ目	ベニタケ科	クサハツモドキ
48	ベニタケ目	ベニタケ科	クシノハタケモドキ
49	ベニタケ目	ベニタケ科	ケシヨウハツ
50	ベニタケ目	ベニタケ科	Lactarius cyathula ?
51	ベニタケ目	ベニタケ科	ホソエノアカチチタケ ?
52	ベニタケ目	ベニタケ科	ニオイワチチタケ

53	ベニタケ目	ベニタケ科	ヒビワレシロハツ
54	ベニタケ目	ベニタケ科	ヒメチチモドキ

55	ベニタケ目	ベニタケ科	ヒナベニタケ
56	ベニタケ目	ベニタケ科	ベニタケ属
57	ベニタケ目	ベニタケ科	モチゲチチタケ
58	ベニタケ目	ウロコタケ科	チャウロコタケ
59	シロキクラゲ目	シロキクラゲ科	ハナビラニカワタケ

「きのこの一口メモ(きのこ観察会より)」 木村雅行

きのこ観察会の当日に下野先生からお聞きした「きのこの特徴」を何度も聞き直さなくてもいいようにメモに残しておきました。図はあくまでイメージです。

<p>アカカバイロタケ(ベニタケ科) ニシンのような臭いがする。ヒダは触れると褐色に変色する。</p>	<p>アカダマキヌガサタケ(スッポ ンタケ科) レース状のマントが短くて、菌蕾表面が赤色を帯びる。モウソウチク林に出る。</p> 	<p>アラゲカワラタケ(タマチョレ イタケ科) 傘の表面に毛がある。</p> 
<p>イロガワリ(イグチ科) 切ればすぐに青色に変色する。</p>	<p>イロガワリキヒダタケ(イグチ科) 切ったら色が黒くなる。</p>	<p>オリーブサカヅキタケ(ホウラ イタケ科) 傘はオリーブ色。関西にはサカヅキタケは少なく、本種が多い。</p> 
<p>カレバキツネタケ(ヒドナンギ ウム科) 傘に条線が入る。アンモニアを好むアンモニア菌。</p>	<p>キッコウアワタケ(イグチ科) 傘の表面がひび割れて、ひび割れから見える肉が赤味を帯びる。</p> 	<p>キヒダタケ(イグチ科) 傘の裏のヒダが黄色で垂直につく。</p>
<p>コオニイグチ(イグチ科) 傘の表面の鱗片が尖らない。オニイグチは傘の表面の鱗片が尖る。</p> 	<p>シロホウライタケ(ツキヨタケ科) 傘の柄が青い。</p>	<p>チリメンタケ(タマチョレイ タケ科) 傘の裏面の穴が細長い。</p> 
<p>ナカグロモリノカサ(ハラタケ科) 傘の中央部が黒くなる。柄に水酸化カリウムを塗ると黄色く変色する。胞子は黒くなる。</p> 	<p>ニオイワチチタケ(ベニタケ科) カレーのような臭いがする。傘に輪のような模様が出る。</p>  <p>カレー臭</p>	<p>ヒメコナカブリツルタケ(テン グタケ科) 白い柄の根っこ(基部)がやや膨らんで灰色である。</p>  <p>灰色</p>
<p>ニオイカレバタケ(ツキヨタケ科) 柄は水酸化カリウムで赤紫色に変色する。</p>		

「久しぶりの金剛山」 田中光彦

7月16日、所用があり、久しぶりに金剛山に登ってきました。せっかくだからということでカトラ谷を登り、ルート72を降りました。3年前の大雨の直後は黒梅林道の舗装してある所にも大岩小

岩がゴロゴロしていたということですが、今はきれいになっていました。カトラ谷はまだ荒れてはいるが登山に支障はなく、おばちゃんグループたちも登っていました。

途中ナガサキオトギリやミゾホオズキ、アカショウマの花があちこちで見られ、ギンバイソウの花も咲き始めていました。ヤマジノホトトギス、ハイコトジソウ、ツチアケビ、クサアジサイの花もありましたが、いずれもこれからが本番の季節を迎えるようです。バイケイソウの花は今が盛りでした。テイショウソウ、サラシナショウマがつぼみの花茎を立ち上げており、カワチブシもまだ小さいがつぼみをつけていました。

カトラ谷の、いつも昼弁当を食べていた水場のある岩場は足元の岩がすべて土砂で埋まっていたが、水場は残っていました。その直ぐ上の砂防ダムには頑丈な、岩石を受け止め下に落ちないようにする鉄製のネットが新たに設置されていて、そこを乗り越えるとダムは砂で埋まっていました。

帰路のルート 72 の道から 10m ばかり先が崩落してカトラ谷方面を土砂と岩で埋めていることがわかりました。梅雨が明け、夏本番になるとまた行ってみたいと思っています。ついでにキノコもノボリリュウやきれいなタマゴタケなども見ることができました。また途中の道のあちこちで、風にちぎられて落ちた、実のたくさんついたブナの枝を見かけました。今年はブナの実が豊作のようです。写真はギンバイソウと国見城址から見たブナの実です。

《会員交流コーナー》*****

§§<このクモの名はなんですか>昨日城北ワンドに行って写真のようなクモを見ましたがなんというクモでしょうか。どなたか教えて下さい。(6/23 田中光彦)

§§<このトンボは>昨日城北ワンドで見たトンボですが、なんというトンボでしょうか。羽の真っ黒い部分が真っ白いのもいました。(6/23 田中)

§§<Re: このクモ、トンボ>トンボはコシアキトンボ、クモはコガネグモでよいと思います。(6/23・中野潤子)

§§<ツツナガヤイトバナ>ボツボツ気の早いヘクソカズラが咲き始めましたが、昨日門真市宮野町でツツナガヤイトバナの花を見ました。ツツナガヤイトバナは、ヘクソカズラの変種の一つとされてきました。

普通のヘクソカズラの多くは、葉が披針形で浅緑色、艶がないけれど、ツツナガヤイトバナの葉は広卵形(横幅が広い)で深緑色か鮮緑色で艶があります。

同じ門真市の上野口町でも花はまだだが同様な葉のヘクソカズラを見たので今度花を確認するのが楽しみです。花期は図鑑では 8~9 月となっていてこれからが花の時期なので、みなさんもヘクソカズラを見たら花の筒の部分が長いかどうか見て下さい。

ついでに葉裏に毛がびっしりと生えてフワフワしているかどうか確認してみてください。フワフワならピロードヤイトバナです。(6/28 田中)

§§<キダチタバコ>昨日の 7 月 22 日、寝屋川市内で帰化種のキダチタバコを見つけました。花と果実をつけていました。キダチタバコはナス科タバコ属の植物で、成長の早い、高さ数メートルになる木本です。5 年前の 2015 年 10 月に近畿植物同好会の水田さんに案内をお願いして、神戸市中央区までわざわざ見に行ったことがあります。栽培品以外のものを見るのはそれ以来です。キダチタバコの種子のことが聖書に書かれていることから、たまにキリスト教会やクリスチャンの庭に植えられることがあるそうですが、用途としてはそれくらいではないかと思えます。黄色の細長い花は小さいがきれいなので、採集した種子を少し蒔いてみようかと思っています。(7/22 田中)

§§<キジョラン>キョウチクトウ科のキジョランをご覧になったことはあるでしょうか。鬼女の蘭です。貴女の蘭のことではありません。大阪では犬鳴山にあることが知られていますが、それ以外ではほとんど知られていません。私も今年になるまで大東市にキジョランがあることなど、夢にも思わなかったことです。と言ってもまだ幼株なので花をつけるまで何年かかるかわかりませんが。それでも 5 月に見つけた時より、今はだいぶ大きな葉になりツルも伸びてきています。杉の林床ですが、だれかに見つかる大きな葉なので、たちまち切られてしまいそうで、人に見つからないことを祈っているばかりです。(8/6 田中)

§§<Re:キジョラン>ご無沙汰しております。毎日暑いですね。キジョランは犬鳴山（泉佐野市）をはじめ、父鬼（和泉市）のあちらこちらに結構あります。ちょうど今頃は花期ですが、犬鳴山では1年中花をつけているのを見ます。ただ、花は結構つけるのに、果実はめったに見れません。やっと見つけても、10メートルぐらいある高木の上でぶらさがっています。冬に犬鳴を歩いているとどこからかフワフワと綿毛が飛んで来るので、「どこかに果実がなっていたんだなあ」と頭上を見上げます。

以前田中さんにはお話ししましたが、今年フトエバラモンギクのつぼみが、20個ほどつきました。ところが、毎日欠かさず観察したのですが、1日も開花は見ずです。それなのに大きな綿毛のぼんぼりが出来ました。種子もきちんと実っています。フトエバラモンギクにはこういうことがよくあるのでしょうか？（8/14 中野）

◎異動：ありません。

◎編集後記：会報の発行が例年とは違う形になっています。編集や投稿に関して、お気軽にご意見などお寄せ下さい。（太田）

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114

◇会費の納入・会計に関して：稲原良三 072-892-8507

◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000 円 郵便振替 00970-4-103735

目次

- 第 416 回例会「神峯山の植物」栗田泰子-----1
 第 417 回例会「キノコ観察会」西畑敬一-----2
 「キノコ観察会・キノコ一覽」田中光彦-----2
 「きのこの一口メモ」木村雅行-----4
 「久しぶりの金剛山」田中光彦-----4
 会員交流コーナー-----5 異動、編集後記-----6
 カラーグラビア版---別刷 例会案内-----6

岡田三千代さん「調べ」（第 62 回研水画展 2018.6.4）
 （カラーグラビア版をご覧ください）

<109 号例会案内>

第 419 回例会「豊能町高代寺カリガネソウ観察」

1. 日 時：2020 年 10 月 3 日(土)雨天中止
2. 集 合：10 時 15 分阪急電車川西能勢口駅能勢電乗り場
 （能勢電ホームは阪急電車の宝塚線梅田方面ホームにあります）
3. 持ち物：マスク、お弁当、飲み物（寺には飲み物がないので少し多めに）、雨具、筆記用具、その他必要と思われるもの
 （注）コロナウイルス対策は各自で十二分をお願い致します。まだ終息していません。
4. コース：能勢電 10 時 24 分発妙見口行きに乗車、終点の妙見口～高代寺参道～高代寺墓地～高代寺の本堂と熊舎～吉川城址～八幡神社に下山妙見口駅に戻ります。15 時 30 分頃解散予定。
 注：距離は短いですが棚田の急坂を上がります。六地藏や町石などを見ながらゆっくりペースで歩きます。帰路は吉川城址を通る緩やかな尾根道を下ります。（熊に会えるようですよー太田）
5. 見るもの：カリガネソウ、クロモジ、ウリハダカエデ、コウヤマキ、クマノミズキ、ミヤマウズラ、イヌトウバナ、オオルリソウ、ヤブサンザシ、ミカエリソウ、境内の樹齢 1000 年を超えるボダイジュとムクロジ、ボタンヅルなど。
6. 担 当：栗田泰子（090-1248-9644）
 （※総会時の予定を変更しています。なお、11 月例会はなし、運営委員会のみです。）

